

今回ポーラは新たに、気づきづらいものの顔全体に存在するシワを、「散在シワ」と名づけました。
これらの散在シワは、顔全体の様々な部分で確認されています。

ポーラが考える、悩みにつながるシワの種類

乾燥による小ジワ「乾燥小ジワ」と、リンクルショットが今まで提唱してきた真皮性のシワに分けられます。
真皮性のシワのなかでも、部分にあるものを「定着ジワ」、全顔にあるものを「散在シワ」としました。

乾燥による

乾燥小ジワ



- 乾燥によって現れる
- 乾燥による小じわを目立たなくする
効能試験済みの化粧品でのケアを推奨

真皮の構造乱れによる(真皮性)

部分の定着ジワ



<目尻、口もと、眉間など>

- 表情圧が局所的にかかる部位にできやすい
- 自分でも意識しやすいところに現れるため気づきやすい
- 無表情のときも刻まれている

NEW

全顔の散在シワ



<顔全体の様々なところ>

- 表情圧が緩やかにかかる部位にできやすい
- 自分でも意識していないところに現れるため気づきにくい
- 無表情のときも刻まれている

※シワ画像と各シワの部位は一例

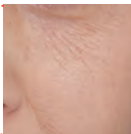
顔の印象を左右する散在シワ



「散在シワ」なし

「散在シワ」あり

目の下・頬



*シワ画像は一例

これらのシュミレーション画像は、画像に部分の定着ジワを加えたものと、さらに散在シワを加えたものです。2枚の画像を見比べていただいたところ、**散在シワがない画像の方が有意に、肌がより明るく、ハリがあるように感じる**という印象評価結果が得られました。

「散在シワ」は本人も気づきにくいですが、**見た目の印象に影響を与える**ことが考えられます。

調査内容：部分の定着ジワのみがある画像(左)、それに散在シワを加えた画像(右)をモニターに提示し、どちらの方がより肌に明るさ・ハリを感じるかを評価。

調査期間：2024年8月22日～8月23日 回答者：20～50代男女 計31名

各評点に対し、1標本のWilcoxonの符号付順位検定により有意差を検出(有意水準5%)

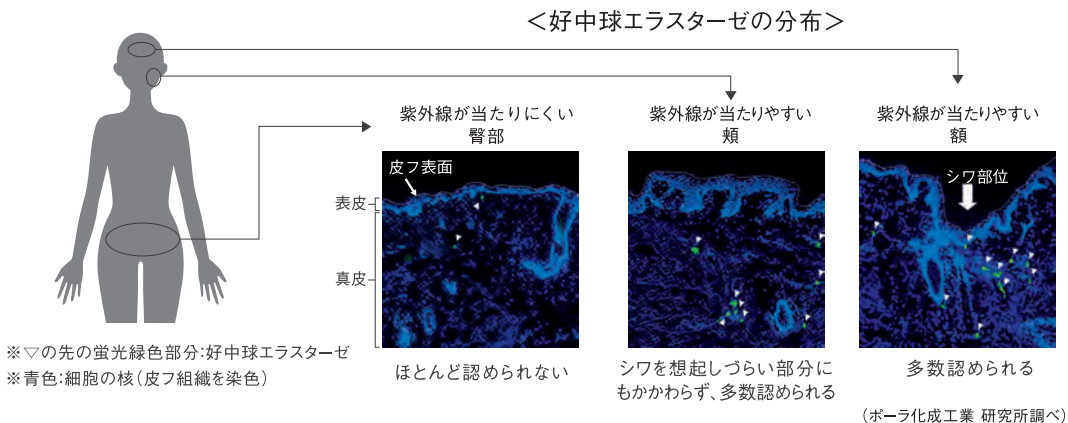
(ポーラ化成工業 研究所調べ)

新発見

シワの一因「好中球エラスターゼ」は全顔に存在

こう ちゅう きゅう

ポーラは、シワの一因「好中球エラスターゼ」が顔の様々な部位に存在していたことに新たに着目。長年、紫外線を浴びた顔全体に好中球エラスターゼが増え、徐々に真皮が分解。散在シワの原因になっていると考えられます。



新発見

好中球エラスターゼの線維芽細胞に対する4つの影響

ポーラは、好中球エラスターゼが、コラーゲンやエラスチンなどの真皮の構成成分を分解するだけでなく、真皮を作る線維芽細胞そのものにも影響を及ぼしていたことを新たに発見しました。線維芽細胞に与える影響は以下の4つです。

好中球エラスターゼにより、線維芽細胞の

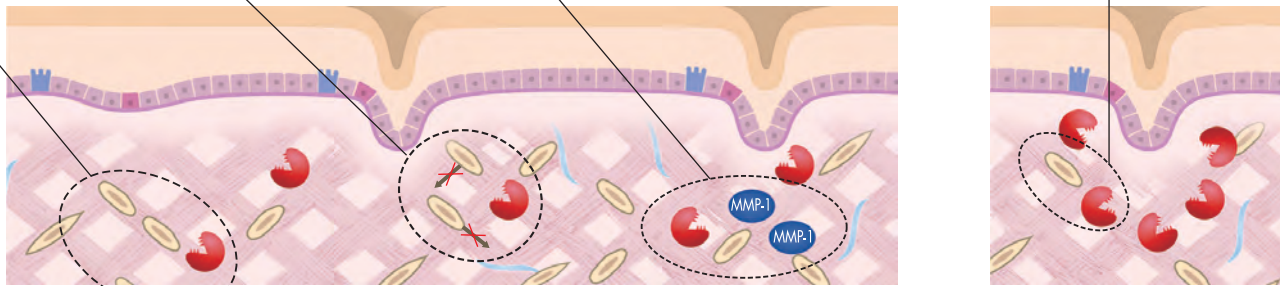
①増殖力が低下

②遊走力が低下

※皮フの中を移動する力

③コラーゲン分解酵素発現量が増加

線維芽細胞の足場となるコラーゲン線維が分解され、増殖力が低下



このように、好中球エラスターゼは、線維芽細胞にダメージを与えて、シワがつけられやすくもとに戻りにくい状態にしていることがわかりました。

(ポーラ化成工業 研究所調べ)